

## (臨床研究に関する公開情報)

相模原病院では、下記の臨床研究を実施しており、「●対象となる患者さん」に該当する方へご協力ををお願いしております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合は以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症患者における認知機能の検討：MoCA-J を用いた評価

[研究責任者] 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 室長 上出 康介

### [研究の背景]

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）は、血液中の好酸球増加と、全身の細い血管の炎症を起こす疾患です。この病気は肺、皮膚、心臓、腎臓など全身の様々な臓器を障害しますが、特に神経障害が機能障害を残すことが多く、時に脳などの中枢神経障害を発症する場合もあります。一方で軽度認知機能障害（MCI）とは、記憶力や思考力などを含めた認知機能が軽度低下するものの、日常生活は問題なく送れる状態を指します。EGPA で多く合併する気管支喘息という病気では、健康な人と比べて MCI 発症リスクが上昇することが分かっており、EGPA でも同様に MCI を発症するリスクが高いことが考えられます。

### [研究の目的]

本研究の主な目的は、EGPA 患者さんにおける軽度認知機能障害（MCI）の頻度を明らかにすることです。加えて先行研究「重症喘息におけるフレイルの危険因子としての経口ステロイド」にご参加いただいた EGPA を合併しない気管支喘息患者さんにおける MCI の頻度と比較を行うことで、EGPA と MCI との関連を検討いたします。本情報公開は、この先行研究に参加された EGPA を合併しない気管支喘息患者さんのみを対象としています。

### [研究の方法]

#### ●対象となる患者さん

- ・先行研究「重症喘息におけるフレイルの危険因子としての経口ステロイド」に参加された気管支喘息患者さん

#### ●研究期間：2026年1月20日から2028年12月31日

#### ●利用する情報

検体の利用はありません。

国立病院機構相模原病院 情報公開用文書 作成日 2025年12月19日 第1.0版  
先行研究「重症喘息におけるフレイルの危険因子としての経口ステロイド」で取得した  
情報を本研究でも利用します。  
先行研究で取得した情報：年齢、性別、喘息治療の内容、種々の合併症の有無やその内  
容の詳細、認知機能評価（MoCA-J）の結果など。

### ●情報の管理

情報は、当院のみで利用します。

### [研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

### [個人情報の取扱い]

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直  
ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表され  
ますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の  
研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

### [研究の資金源、利益相反について]

この研究は当院 アレルギー・呼吸器科の研究費を用いて実施されます。

この研究における当院の研究者の利益相反<sup>\*</sup>については、当院の利益相反委員会で審査  
され、適切に管理されています。

<sup>\*</sup>外部との経済的な利益関係等によって、研究データの改ざん、特定企業の優遇など研究が公正かつ適切に  
行われていないと第三者から懸念されかねない事態のこと。

### [研究の参加について]

この研究実施への参加や途中での参加中止は、あなたの自由な意思で決められます。  
この研究への参加（先行研究で得た情報を利用すること）にご協力いただけない場合  
は、研究責任者等又は「問い合わせ先」にご連絡いただくか研究参加拒否書に署名し、  
日付を記入して研究責任者等に渡してください。研究にご協力されなくとも、診療等に  
おいて不利益を受けることはありません。ただし、ご連絡いただいた時期によってはこの  
研究の結果が論文などで公表されているなどあなたのデータを取り除くことができ  
ない場合がありますことをご了承ください。

### [問い合わせ先]

国立病院機構相模原病院

電話 042-742-8311（代表） FAX 042-742-5314

国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 上出 庸介